

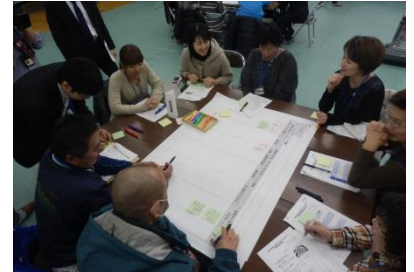
平成25年度

女川町まちづくりワーキンググループ

第8回 定例会だより

平成 26 年 3 月 4 日に、第 8 回女川町まちづくりワーキンググループ全体定例会が開催されました。

第 2 回の定例会で講師を務めていただきました弘前大学の北原啓司氏にもご出席いただき、各検討チームの報告、これまで検討してきたシティプロモーションのまとめを行い、北原氏のコメントをいただきました。



第 8 回全体定例会開催概要

開催日時：平成 26 年 3 月 4 日（火） 18:30～20:30

開催場所：女川町総合体育館 2 階剣道場

参加者数：19 名

【内容】

(1) 前回の振り返り

(2) 各検討チームからの報告、北原先生のコメント

(3) グループワーク

各検討チームからの報告

《観光交流エリア検討チーム》

第 5 回・第 6 回ワークショップで、『くどける水辺があるまち』の実現に向けて、どこでどんな取り組みをすべきか話し合いました。海岸先端部の魅力ある空間づくりや来訪者を誘導するしかけづくり、ロマンチックな雰囲気づくりなどについて様々なアイデアが出されました。また、まずは住む人が楽しめるまちにするために、ベンチや花壇のオーナー制度を設け、町民が競い合いながら維持管理していくことができる関わり方が提案されました。

北原氏からは、「空間が完成する前から住民が関わることで、住民の積極的な維持管理につながる」「町民が楽しめる場所にすることで、魅力的な訪れたい水辺となる」などのコメントをいただきました。

《運動公園検討チーム》

第 5 回ワークショップを開催し、清水公園上流部の整備イメージにもとづき、それぞれのエリアを魅力的にする方策、たくさん人に来てもらうための方策、さらに、管理運営の方法について話し合いました。「安全面の確保は必要だが、管理人の常駐は資金的に難しい」、「バーベキューエリアや町民農園で運営資金を獲得する」「町民が自分の得意分野について集まって管理を行う」などの意見が出されました。

北原氏は、「利用者が休憩したり遊ぶだけでなく、ここは『地域を元気にする公園』になる。」とコメントされました。

第 6 回では、今から自分たちでできる取組みについて具体的なプランを話し合う予定です。

《教育環境検討チーム》

第 4 回検討チームを開催し、地域ぐるみで子どもを育てていくための体制づくりについて話し合いました。「育成会が子どもと地域との関わりの基本であった」「外から来た人は地域のコミュニティに入りづらい」「ある程度の強制力を持って参加できるようなイベントが必要」などの意見がだされました。北原

氏からは、「地域が子どもを育てることは、子どもと地域を育てることにつながっていく」「従来のPTAではなく、PTCA（Cはコミュニティ）という概念で、子どもと地域の人がつながる場を創出している例がある」などのコメントをいただきました。

《公共施設検討チーム》

第5回検討チームを開催し、庁内関係各課との意見交換を行ないました。
地域交流センターについては「ガラスなどを使ったファサードを検討して欲しい」「今の計画以上には機能を詰め込みすぎない方がよい」、保健センター・子育て支援センターと、役場などとの連携については「ワンストップサービスを目指していくべき」「今はコミュニケーションが取れている。今後も、今のような関係性を保っていけたら良い」などの意見が出されました。また、施設間の移動については、「交通弱者の負担軽減のため、デマンド交通を検討すべき」「分けるべきもの、一緒にあるべきものを整理したほうが良い」などの意見が出されました。

グループワーク（プロモーション戦略のまとめ）

今回のグループワークでは、前回のグループワークで検討した発信の仕方、プロモーション戦略を誰が担っていくのかについて話し合いました。

テーマは、前回の検討内容をもとに「自然・歴史が豊かなまち」「魚がおいしいまち」「定住促進」の3つで検討を行いました。



自然・歴史が豊かなまち（リアスを売り出す）

- 山のトレッキングや海への眺望などを寄せ集めて、売り出すためのルートを検討する。
- 知られていない見どころや、売り出す材料が少ないが、ビュースポットの情報を一元化して発信していくことで効果的な発信が可能になるのではないか。
- 「リアスの戦士イーガー」の続編を製作する。
- 自然や歴史を、食べ物とセットにして売り出すと効果的ではないか。


魚のおいしいまち（体験できる場所をつくる）

- 体験プログラムは現在 12 種類あるので、季節に応じたプログラムの改善・PRが必要と思われる。
- 体験プログラムの拠点がないため、行政や民間企業の支援を受けて整備していきたい。
- 魚を船に揚げるところやわかめを茹でると緑色になることが体験プログラムになる。学生は参加しやすいが、一般の方に参加してもらうためのPRが必要。
- リピーター獲得の仕掛けとして、牡蠣では、種付け、掃除、収穫と3つの工程で体験プログラムができる。

定住促進（女性がキレイで元気な町）

- 若者が同年代の人と交流する機会がない。若い人のサークル活動を積極的に取り組むべき。
- 手芸などを行っている人も多く、その作品を展示したり販売することができれば、生きがいにもなると思う。
- 安い住宅や、魅力的なレストラン、フェスなどのイベントなどがあると良いと思う。
- 働くお母さんのニーズに合った、施設整備を進めてほしい。

最終報告会の結果と平成26年度のワーキンググループの取り組みやメンバー募集につきましては、来月号の広報おながわ、または復興ニュースにてお知らせいたします。

 お問い合わせ先

水川町役場 復興推進課 復興調整係 TEL 0225-54-3131（内線239）